
小学生の絵画教室

～絵を描きたい子、集合！～

〈東北コミュニティセンター〉

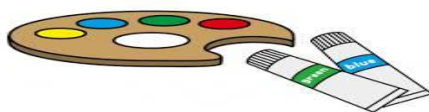
- 開設の趣旨 夏休みに行きたいところや、想像したことを自由に表現し、
描画の楽しさを味わう。
- 期 間 平成30年7月26日（木）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内の小学生・20人
- 参加者 21人
- 講師 絵画教室主宰 森 千恵子
- 事業内容 夏休みに行きたいところや想像したことを自由に表現して描
画の楽しさを味わう。持参した水彩絵の具の他に色鉛筆やクレ
ヨンも使用して描いてみる。
- ま と め

講座受付当日にほぼ定員に達して、キャンセル待ちも設けた。事前のキャンセルも当日の欠席もなく、参加者の熱心さが表れていた。学年に偏ることもなく、1年生から6年生まで全学年の子どもが参加し、兄弟での参加が6組だった。

内容は夏休みに行きたいところなどを想像して描くことをテーマに、各自、絵の具や色鉛筆で自由に描いた。子どもたちは集中して取り組み、講師が一人ずつ回ってアドバイスをしていた。講師の絵に対する思いが子どもたちにも伝わり、終始なごやかな雰囲気で行われた。

全員の作品をイーゼルに立てて鑑賞したが、どういう思いでこの絵を描いたか、という問いかけはなかった。子ども達は描いている最中にもどんどん発想が浮かんだり変わったりするので、言葉では説明できないとのことである。

昨年は参加者が少なかったが、今回は早めのポスターやチラシが効果的であったと思う。



親子陶芸教室

～世界にひとつだけの作品作り～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 独創的なお皿やカップを作る活動を通して陶芸に親しみ、親子のふれあいの場を設ける。
- 期 間 平成30年12月8日(土)
- 時 間 午前10時～正午 (計2時間)
- 対象・定員 市内の小学生と保護者・12組
- 参加費 粘土代(1g1円)、当日計量し集金。
- 参加者 12組27人(保護者12人、子ども15人)
- 講師 陶芸工房主宰 佐原朋子
- 事業内容 皿やカップの成形、装飾
- まとめ

人気のある講座で、受け付け開始してすぐに定員に達して、キャンセル待ちも設けた。事前のキャンセルも当日の欠席もなく、参加者の熱心さが表れていた。今回はカップやお皿、表札の他にご飯茶碗とクリスマスツリーのような形のライトも作ることができた。それぞれが作りたい物を決めて製作を始めた。土台になるものを作ってから、押印や色粘土などで飾りをつける。作品が完成してから重さを量り、1グラム1円の計算で粘土代を参加費として集金した。

作品は講師に工房に持ち帰っていただき、十分乾かしてから素焼きし、透明の釉薬を付けて本焼きして完成となり、11日後に持ってきてもらった。講座は2時間でも、その前後にかなり時間がかかるが、全てを段取りよく進める講師のおかげで成り立つ講座である。

親子で楽しく製作に向き合い、作品の完成を喜び合えることは素晴らしいことだと思う。



テレビ番組製作の現場を知る

～アニメ・歌・旅番組など～

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 身近な存在であるテレビについて考える場として、個人がさらに興味を深めるきっかけづくりとする。
- 期 間 平成30年10月20日（土）
- 時 間 午後1時～3時 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 22人
- 講師 テレビ東京 真船 佳奈
- 事業内容 テレビ制作に携わっている人から、特にアニメ・歌・旅番組について説明してもらう。身近な存在であるテレビについて、改めて考え、興味を深めるきっかけとする。

○ま と め

土曜日開催であることと、内容が中学生にも適していることを考えて、対象を中学生以上にした。しかし、中学生の応募は全く無くて、集客の難しさを感じた。講師はディレクターの経験があり、漫画家としても活動している方で、その経験を通して、番組の裏側や制作の苦労について話してくれた。

後半は主に質問に答えることで進めてくれた。鉄道番組やワールドニュースをもっと増やしてほしい、ぶらり旅番組は本当は事前に段取りしているのではないかなどと、活発な質問が出た。

スマートフォンなどでテレビを見られる現在、若者のテレビ離れが進んでいて、より魅力的な番組作りが求められているようだ。

今回初めて企画した講座で、集客は簡単ではなかったが、受講した方には満足してもらえたようだ。

子育てラクラク講座

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨
 - ・ 幼児期の子育てに役立つ知識や技術を学習する。
 - ・ 保護者が心身共にリフレッシュし、今後の子育てにゆとりを持って向き合えるようにする。
 - ・ 親子それぞれの仲間作りのきっかけとなる場を提供する。
- 期 間 平成30年9月28日～10月19日までの毎週金曜日
(計4回)
- 時 間 午前10時～正午 (計8時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 15組 参加延べ人数 36人
- 保 育 14人 (男6人、女8人)
- 事業内容

回	月 日	内 容	講 師
1	9 / 28	家族のすてきなつながりを考えましょう ～前半は親子一緒に楽しく過ごします～	NPO 法人にいざ子育て ネットワーク代表 坂本純子
2	10 / 5	気分をリフレッシュ ～リンパマッサージとポイントメイク～	ビューティアドバイザー 柴崎明美・今村智子
3	10 / 12	みんなで考える文殊の子育て ～皆さんから質問を寄せていただきます～	子ども110番相談員 にしがはちだい
4	10 / 19	リズムダンスで楽しく！ ～後半は子どもたちも一緒に踊りましょう～	ダンスインストラクター 西 綾夏

○まとめ

応募者が少なく、集客に大変苦労した。近隣の地域子育て支援センター、幼稚園、プレ保育を始め、商業施設等にも大量にチラシを配った。また、市のメール配信なども利用したが効果が見られず、2歳未満、新座市外、親だけの参加も受け入れることにした。母親が早めに仕事を再開していることやプレ保育等の影響かと思うが、今後の企画を検討しなくてはならないと思う。

受講者はリフレッシュできた様子だった。

心地良い暮らしのヒント

～家事のコツとアロマセラピー～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 家事を効率よく行ない、ゆとりある生活をする。またアロマセラピーで心や身体を癒やす方法を学ぶ。
- 期 間 平成30年5月25日、6月4日の金曜日（計2回）
- 時 間 午前10時～正午（計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・25人
- 参加者 22人 参加延べ人数 42人
- 参加費 500円（アロマ代）
- 保 育 希望なし
- 事業内容

回	月 日	内 容	講 師
1	5月25日（金）	掃除、片付け、家計などの家事のコツについて	婦人之友友の会 会員4名
2	6月 1日（金）	アロマでハンドマッサージ 足浴など	アロマセラピスト 堀岡幸恵

○ま と め

1回目は掃除、片づけ、常備菜、家計などの家事全般について説明してもらった。4人の講師がそれぞれ得意な分野を担当した。牛乳パックを利用して、引き出しの仕切りを作る作業も行った。

2回目はアロマセラピーを行った。アロマで使用する精油の匂いを嗅いで、原料が実、花、草、木のどれであるか、また、その効用を学んだ。ハンドマッサージと足浴を行い、気持ちよくリフレッシュができたようだ。バスソルトとバスミルクを作り、各自持ち帰った。

2回とも大変和やかな雰囲気で行われ、アンケートの結果を見ると、多くの人に満足してもらえたようだ。講師が細かいところまで準備してくれたことも要因かと思う。保育付きにしたが、保育を必要とする子育て中の方の参加希望者がいなかったのは残念だった。

苔テラリウム教室～ガラスの中につくる小さな世界～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 苔を使ってガラス容器の中に個性あふれる小さな世界を作り、家庭での鑑賞、育成を楽しむ。
- 期 間 平成30年11月8日（木）
- 時 間 午後1時30分～3時30分（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・16人
- 参加者 16人
- 講師 グリーンアドバイザー 大島 恵
- 事業内容 スペースをとらずに楽しめる「ミニ苔テラリウム」の作成方法、育成方法などを学び、実際に自らの手で作った作品を各家庭で鑑賞してもらう。



○ま と め

冒頭、講師は参加者に苔に対するイメージを尋ね、その後に様々な種類の苔の説明を行い、苔への親近感を持たせた。その中で、苔は極端な環境に置かれていない限り意外なほど丈夫であるとの説明があり、作成後の育成、管理への安心感を持つことができた。

作業に入り、まず瓶の底に砂、小さな軽石を敷き、その上に土台となるヤマゴケを配した。その後、参加者それぞれの感性により、形状や大きさの異なる苔を配置し、独自の世界をつくりはじめた。配置するものの中で、動物や小屋などのミニチュアを1点だけ選んでもよいことになり、それを使うことにより自分の描く世界のイメージが固まっていったようだ。ただし、講師からは「主役はあくまでも苔である」との説明がなされる一幕も見られた。

仕上げの段階では、全方位から眺めて微調整を行い、各自、想像以上の完成度に納得、満足していたようだった。

終了後、「同様な企画を続けてほしい」「子育て中だが、貴重な体験が得られた」などの意見が寄せられた。

文学講座

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 夏目漱石「夢十夜」を読み解く。
- 期 間 平成30年8月17日～8月31日までの毎週金曜日(計3回)
- 時 間 午前10時～正午 (計6時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 30人 参加延べ人数 73人
- 講師 大妻女子大学教授 須田 喜代次
- 事業内容

回	月 日	内 容	講 師
1	8月17日(金)	夏目漱石の「夢十夜」を鑑賞し、夏目漱石や当時の時代背景などを含めて学習する	大妻女子大学教授 須田 喜代次
2	8月24日(金)		
3	8月31日(金)		

○ま と め

数年に渡り、太宰治、芥川龍之介、森鷗外、夏目漱石などの作品を鑑賞し、昨年は、森鷗外の「青年」であった。今年は、講師からの勧めで、夏目漱石の「夢十夜」に決まった。

この「夢十夜」という作品は、当時の現在(明治)、^{かみよ}神代、鎌倉、100年後と10の不思議な夢の世界を綴る。「こんな夢を見た」という書き出しが有名である。漱石としては珍しい幻想文学の作品である。

文芸評論家の桶谷秀昭は、「漱石の全作品の濃縮の原液」、小説家の大庭みな子は「文学の根源」と表現し、漱石の他の作品の基となった作品である。

毎年、好評の講座ですぐに定員に達した。講義の受講者は60代から80代であった。皆、熱心に講義を受けていた。アンケートからも須田講師の講座は大変好評であった。

大人のための日本語講座

～場面ごとの言い回しと気になるカタカナ語～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 わかっているようないないようなカタカナ語や、場面ごとの言い回しを中心に学ぶ。敬語、四字熟語なども学ぶ。
- 期 間 平成30年7月13日・20日の金曜日（計2回）
- 時 間 午前10時～正午（計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 18人 参加延べ人数 31人
- 講師 日本語検定委員会公認講師 新島 尚子
- 保育 1人
- 事業内容

回	月 日	内 容
1	7月13日(金)	一般化してきた外来語やカタカナ語の語源や用法
2	7月20日(金)	カタカナ語の意味、尊敬と謙譲語

○ま と め

最近増えているカタカナ語を中心に、その意味や用法について説明してもらった。コンプライアンス、コンセンサス、リテラシーなどのテレビや新聞で見たり聞いたりしていることばでも、正しく理解していないカタカナ語があり、とても勉強になったようである。カタカナ語は多用してほしいわけではなく、外来語にふさわしい日本語がないために使用されているということである。哲学書を翻訳する際に、福沢諭吉が広めたことがきっかけということである。アンケートの結果は概ね好評で、回数を増やしてほしいという声もあった。

保育付き講座にしたが、希望者は1人だけだった。

シニアのためのスマートフォン教室

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 近年、スマートフォンの普及が目覚ましいが、使い方がわからない人も多い。その傾向はシニア世代に著しい。昨年までは、タブレット講座を開設したので、今年度はスマートフォンの基礎知識を教える講座を開設する。シニア世代を対象にスマートフォンがどのようなものであるかを知ってもらい、今後利用するかを判断する機会を提供する。
- 期 間 平成31年1月18日（金）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤でスマートフォンをお持ちでない方、これから検討される方、概ね70歳位までのタブレットをこれから利用予定の50歳以上の方・20人
- 参 加 者 20人
- 講 師 KDDI 認定講師 三島 将生
- 事 業 内 容 これからスマートフォンを利用しようとするシニア世代に基本操作を伝授し、スマートフォンがどのようなものを理解してもらおう。
- ま と め

本館としては昨年度までで、3回のタブレット講座を実施したが、今年はスマートフォンの購入を検討している人を対象にしたコースの講座を実施した。講師からの要望で、対象者におおむね70歳までと広報とホームページに記載してほしいと要望があったので、対象者の年齢制限を始めて記載し掲載した。年齢制限を記載したためか、毎年1時間で応募が終了してしまうが、今年は2日かかった。スマートフォンを持っていない人が対象であったが、実際にスマートフォンを持っていない人は少ないようだった。KDDI本社から職員が4人見学に来ていたので、わからない人はその方からも教えてもらえたので、行き届いたサポートをしていただいた。受講者は70代以上の人が半数以上であった。

ヨーロッパ 珠玉の世界遺産への誘い

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 海外旅行が盛んになった今日、いつかは訪れてみたい憧れのヨーロッパを選びすぐり、鉄道やフェリーの旅を紹介した。
- 期 間 平成31年2月22日（金）
- 時 間 午後1時～3時 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 28人
- 講師 トラベルライター 大和田聡子
- 事業内容 パリ～イギリス～ベルギー、オランダ～ドイツなどの世界遺産をフェリーや鉄道を使ったヨーロッパ12日間の充実の旅をシミュレーションする。
- ま と め

定着しつつある東北コミセンの旅行講座シリーズの位置づけで今年も海外旅行を取り扱う講座を実施した。今回は今人気のある世界遺産の旅講座を企画した。講師から世界遺産は1000を超えるものなので、テーマを絞ったほうがよいとのことで、ヨーロッパの世界遺産に限定して話してもらうこととした。講師はトラベルライターなので、実際に旅行をしているように、世界遺産を紹介してもらった。講師は12日間の旅の行程を作成してきて、それにそってヨーロッパの世界遺産の旅をした。実際の潮の満ち引きの時間で計画がたてられ、皆、ヨーロッパの旅を満足していただけたようだった。男性受講者も多かった。25名定員で募集したが、申込が多かったので、30名に増員した。



芸術鑑賞講座

～ヴァイオリンの魅力に触れる・仏像の鑑賞入門～

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 美術、音楽、伝統芸能などを幅広く鑑賞し、教養を高める
- 期 間 ①平成30年11月2日(金) ②平成31年1月11日(金)
- 時 間 午前10時～正午(計4時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・①50人 ②30人
- 参加者 ①27人 ②25人 参加延べ人数 52人
- 講師 ①ヴァイオリニスト 川上拓人・ピアニスト 久保山菜摘
②らくたび代表取締役 京都学講師 若村 亮
- 事業内容 ①楽器の仕組みを学び、演奏を聴くこと楽しむ。
②4つに分類される仏像の違い、手の形や持ち物の意味を学ぶ。

○ま と め

ヴァイオリンの講座は、楽器を近くで見て、楽器の仕組みや種類を学ぶことが主なテーマであり、後半はピアノ伴奏付きで演奏も披露してもらった。二人とも20代の若い音楽家で、楽器との出会いなどの話は受講者に新鮮な影響を与えたようだ。コンサートでは味わえない、大変なごやかな雰囲気で行われた。キャンセルが多かったことは残念だった。

仏像の講座は応募者が大変多く、申込み開始後すぐに定員に達してしまい、非常に多くの方を断る結果になってしまった。仏像の鑑賞について興味を持っている人が想像以上に多いことに驚いた。

講座の前半は主に仏教伝来や神仏混合から神仏分離についての説明、後半は映像を見ながら、如来・菩薩・明王・天部それぞれの役割と、その姿や手に持っている物の違いについての説明だった。代表的な仏像があるお寺や、鑑賞のポイントの説明など興味深い内容だった。講師の話は大変聴き取りやすく、受講者の反応は良好であり、また企画してほしいという声が多かった。

楽しい英会話（初級）

～さらに増える外国人と話すために～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 外国人に質問された場合を想定して会話を学ぶ。
- 期 間 平成30年10月16日～30日までの毎週火曜日（計3回）
- 時 間 午前10時～正午（計6時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 20人 参加延べ人数 50人
- 保 育 4人（男2人、女2人）
- 講 師 英会話講師 Frances Gleeson（フランセス・グリーソン）
- 事業内容

回	月 日	内 容
1	10月16日（火）	あいさつ、道案内に役立つ単語の説明、練習など
2	10月23日（火）	地図を見て道案内の練習、発音練習など
3	10月30日（火）	レストランの注文、役になって練習

○ま と め

受付当日に定員に達して、英会話の人気の高いことがわかる。若い人の応募者も多く、保育希望は4人だった。講座開始前のキャンセルもなく、出席率も良かった。2020年に向けて、初回にはオリンピック・パラリンピック推進室の出前講座があり、ブラジルのホストタウンである市の取り組みの説明があった。英会話学習をボランティアに役立ててほしいとの話があった。

1、2回目は主にあいさつや道案内について学習した。実際にペアになって練習したり、グループでの発音練習を楽しく行った。3回目はレストランでの注文の仕方も加わり、楽しく練習をすることができた。英語のみの授業だが、簡単な英語で繰り返して説明してくれた。講師の明るさと感情表現の豊かさがとても魅力的で楽しい講座だった。また開催してほしいという声が多かった。

人権を考える

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 利用者懇談会の中で人権について学習する。
- 期 間 平成30年11月10日（土）
- 時 間 午前10時30分～午前11時（計 0.5時間）
- 対 象 当館利用者団体代表・71人
- 参 加 者 39人
- 事業内容 人権啓発推進ビデオ「日常の人権Ⅰ」の上映。
ドラマ編とドキュメンタリー編で、「女性の人権」、「子どもの人権」「高齢者の人権」の3つの人権課題で構成されている。

○ま と め

利用者懇談会の場を借りて、人権啓発推進ビデオを上映した。

「女性の人権」自分の無自覚な言動が、妻や会社の女性たちを傷つけていることに気付かない会社員の姿を描く。

「こどもの人権」子どもの人権に無自覚な親に気付きはあるのか。子どもの権利と人権について考えていく。

「高齢者の人権」認知症の母親を介護している女性は、気持ちのゆとりを失っていく。高齢者は、周りの人々に何を望んでいるのか。

「女性の人権」、「子どもの人権」「高齢者の人権」と私たちに身近な題材であったため、多くの方が考えさせられる内容であった。



デッサンと着彩

～デッサンの基礎を学ぼう～

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 初心者を対象にデッサンと着彩の基本を学ぶ。
- 期 間 平成30年12月1日・15日の土曜日 (計2回)
- 時 間 午後1時～3時 (計4時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 19人 参加延べ人数 34人
- 講師 絵画教室主宰 森 千恵子
- 保育 希望なし
- 事業内容

	月 日	内 容
1	12月 1日(土)	それぞれが持参したモチーフをデッサンする
2	12月15日(土)	水彩絵の具や色鉛筆で色を塗る

○ま と め

受付を始めてから、順調に申込みがあった。キャンセル待ちを設けるほどではなく、ちょうどよい人数だった。保育付きにしたが、希望者はいなかった。

1回目は、それぞれが机の上に置ける大きさのモチーフを持ってきて、そのデッサンをした。コーヒーカップ、人形、置物など様々な物があり、受講者は集中して熱心に取り組んでいた。

2回目はデッサンした作品に水彩絵の具や色鉛筆で色を塗った。

受講者が描いている間に講師が見て回り、一人ずつアドバイスしていく形で進められた。完成後は全員の作品を並べて鑑賞して、講師の感想を聞いた。

受講者の満足した結果がアンケートに表われていた。良い時間を過ごせた、絵を描くきっかけになったという声が多かった。

異文化理解講座

～ブラジルの音楽・ロシアの生活～

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 それぞれの国の出身者の話や音楽を通して、異文化への理解を深める。
- 期 間 平成31年2月9日（土）、3月20日（水）（計2回）
- 時 間 午後1時～3時 （計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・①80人 ②35人
- 参加者 ①57人 ②35人 参加延べ人数 92人
- 講師 ①ブラジル音楽研究家 奥山かおり、
フォホーフロール チ ジュアゼイロ
②埼玉国際交流協会会員 本田タチアナ
- 事業内容 ①音楽を通してブラジルの文化を学び、ポルトガル語に触れる。
②ロシアの風土や暮らしを学び、簡単なダンスも体験する。
- まとめ

ブラジルの講座の日は雪の予報が出ていたこともあり、参加者が少なく残念だった。新座市はブラジルのホストタウンになっているので、音楽を通してブラジルを知る機会にした。サンバ、ボサノバ、ショーロ、フォホーの演奏とダンスを楽しんでもらうことができた。簡単なポルトガル語も学習した。最後はガンザ（マラカス）の講習を受け、全員で曲に合わせてリズムをとって盛り上がった。ペットボトルを利用した手作りガンザはとても喜んでもらえたようだ。

ロシアの講座は定員に対してちょうど良い人数が集まった。講師が生まれ育った国について、気候や食べ物などについての説明があり、全員でダンスも体験した。質問は生活全般から政治についてまで多岐に渡ったが、丁寧に答えてくれた。講師手作りのお菓子やジャムとロシアの紅茶を飲み、和やかな雰囲気講座だった。他の講座に比較して、男性の受講者が多かった。

今後もしろいろな国の紹介をし、異文化を知るきっかけ作りをしたいと思う。

ストレッチとリズムダンス

～楽しく踊ろう～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 ダンスを通して身体も心も元気になり、明日への活力を生み出す場を提供する。
- 期 間 平成30年5月22日～6月5日までの毎週火曜日 (計3回)
- 時 間 午前10時～正午 (計6時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 23人 参加延べ人数55人
- 保育 2人(男1人 女1人)
- 講師 ダンスインストラクター 西 綾夏
- 事業内容 ダンスを通して身体も気持ちも元気になる機会を提供する。

回	月 日	内 容
1	5月22日(火)	ストレッチと「雨に唄えば」の振り付け練習
2	5月29日(火)	ストレッチと「メリーポピンズ」の振り付け練習
3	6月 5日(火)	1、2回目のまとめ、ミュージカルダンスの総仕上げ

○ま と め

小中学校でダンスが取り入れられていることも考えて、大人のダンス講座を企画した。受講者の年齢は20代から70代まで大変幅広く、保育希望者は2人だった。前半はストレッチで、後半にミュージカル曲に合わせてダンスの練習を行った。最終回は小さなミュージカル風ダンスが出来上がった。参加者は頭と身体もフル回転で振り付けを覚えている様子だった。最初は恥ずかしがっていた人もだんだん楽しくなり、アンケートの結果にその様子が明確に表われていた。講師の教え方が素晴らしく、良い雰囲気で行われた。もっと続けたいという声も多く、サークル化や講座の再開を希望する声があった。

ケーナとギターの南米folkloreコンサート

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 地域の皆さんに生の演奏を楽しんでもらう。世代を超えて地域の交流や活性に役立てる。
- 期 間 平成31年1月19日（土）
- 時 間 午後1時30分～3時（計1.5時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・100人
- 参加者 81人
- 事業内容 1部 コンドルは飛んで行く、花祭りなど
2部 あなたのサンバ、星に願いをなど
- 演奏者 ケーナとギターの夢
高橋マサヒロ（ケーナ・サンポーニャ・ギター・フルート）
飯泉昌宏（ギター・チャランゴ）

○ま と め

毎年1回実施するコンサートである。今回は南米音楽のfolkloreのケーナとギターのコンサートを行うこととした。80名定員で申込者が多かったため途中で定員を100名に増員した。申込者の年齢層は高かった。南米の民族音楽だけでなく馴染みのある曲も含め合計14曲を演奏していただいた。また珍しい楽器の紹介もしていただいた。ケーナとギターの美しい音色に皆聴き入っていて大好評だった。

参加者は高齢の方が多かった。

J : COMの取材が入った。



外国人のための日本語教室

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 日本語を母国語としない人を対象に、日本語の学習と地域社会での生活の円滑化を支援する。
- 期 間 平成30年4月1日～平成31年3月24日までの毎週日曜日計41回
- 時 間 午後6時30分～8時 (計 61・5時間)
- 対象・定員 日本語を母国語としない外国人 ・79人
- 参加者 79人 参加延べ人数 711人
- 事業内容 日本語の学習、指導及び生活の円滑化について参加者へ支援を行う。
- ま と め

平成20年度から新座日本語の会と共催で始め、今年度で10年目となる。学習者の国別ではベトナムとフィリピンが圧倒的に多く、ベトナムは圧倒的に男性が多い。他には中国、韓国、タイ、オランダ、ミャンマー、ロシア、イランなど多くの国、地域から参加している。

夜間講座なので連続しての出席はなかなか難しいようである。入門レベルの受講生がほとんどで、日本語のみならず、日本の文化についての紹介もしている。本市及び近隣地域において今では日本語を学ぶのに不可欠な存在となっている。



イキイキ実年学級

〈東北コミュニティセンター〉

○開設の趣旨 知識を高め、健康で楽しい生活が送れるよう、地域の高齢者の仲間づくりを後押しする。

○期 間 平成30年6月15日～29日までの毎週金曜日 (計3回)

○時 間 1・2回目 午前10時～正午

3回目(館外学習) 午前8時30分～午後5時

(計12.5時間)

○対象・定員 市内在住又は在勤の60歳以上の方・25人

○参加者 25人 参加延べ人数62人

○事業内容

回	月 日	テ マ	講 師
1	6月15日(金)	健康体操(自彊術)	サークル講師 上田 はる美
2	6月22日(金)	安心して暮らすための住まい作り	建築士・けんかつ市民講師 渡辺 南美
3	6月29日(金)	牛久大仏	東北コミセン職員同行

○ま と め

毎年、人気ある高齢者学級である。参加者のほとんどが女性。男性は3人であった。

第1回目は東北コミュニティセンターサークル講師による健康体操である自彊術を行った。自彊術とはあまり馴染みがない体操であるが、治病を目的とした日本で一番古い健康体操である。マットを用意したが、足の悪い方には椅子に座ってもらい体操を行った。

第2回目の講座は、「安心して暮らすための住まい作り」を行った。高齢者のための安全対策やちょっとした模様替えをすることで、暮らしの質が変わることの講義を行った。

第3回目の館外学習は、青銅製では世界一の大きさの牛久大仏と日本で初めてのワイン工場の牛久シャトーを訪れた。皆さん満足している様子だった。